

- 問1 九州地方の周辺を流れる海流が、地域の生活や気候に与える影響について述べた文として、正しいものを選びなさい。 （2023年 佐賀県公立入試 類似）
1. 日本海を南下する対馬海流が、九州地方に乾燥した冷たい空気を運んでくるため、冬は降水量が非常に少なくなる。
 2. 北からのリマン海流が九州の日本海側に冷たい水を運ぶため、冬の九州北部は北海道と同じくらい寒冷になる。
 3. 太平洋側を流れる親潮の影響で霧が発生しやすくなり、夏でも気温があまり上がらない冷涼な気候となる。
 4. 赤道付近から北上してくる黒潮や対馬海流が暖かい空気を供給するため、冬でも比較的温暖な気候となる。
- 問2 沖縄県の人口動態を示した統計において、出生率が11.6、死亡率が8.1となっており、出生率が死亡率を大きく上回るデータが示されています。このような数値の背景にある、沖縄県の人口増加の主な要因を説明したものとして適切なものはどれですか。 （2018年 三重県公立入試 類似）
1. 観光産業の発展により、県外からの労働者が転入し続ける社会的増加が主な要因であるため
 2. 若年層の他県への流出が止まり、合計特殊出生率が急激に低下したため
 3. 他県から移住してくる高齢者が多いため、死亡率が全国で最も低くなっているため
 4. 出生率が全国的に見ても高く、死亡数を上回る自然的増加が続いているため
- 問3 九州地方にある、温泉地として全国的に有名な観光都市の産業構造や社会状況について説明した文として、最も適切なものはどれですか。 （2019年 佐賀県公立入試 類似）
1. 広大な土地を活かした大規模な農業や畜産業が盛んであるため、第1次産業の就業者割合が他の都市に比べて高く、若者の流入が続いている。
 2. 臨海部に鉄鋼業や自動車産業などの大規模な工場が集積しているため、第2次産業の就業者割合が最も高く、生産年齢人口の割合も非常に高い。
 3. 県庁所在地として行政機能や情報通信業が集中しているため、第3次産業の割合は高いが、都市開発により子育て世代の人口が増加している。
 4. 旅館や飲食店などの観光関連のサービス業に従事する人が多いため、第3次産業の就業人口割合が極めて高いが、少子高齢化や人口減少という課題も抱えている。
- 問4 宮崎県では、農業産出額の約3分の2を畜産が占めています。このように宮崎県で肉用牛、豚、鶏などの飼育が盛んになった背景として、土地の性質に触れた説明として最も適切なものを選びなさい。 （2024年 茨城県公立入試 類似）
1. 大消費地である東京から遠いため、野菜よりも保存や加工がしやすい畜産物の生産に力を入れた。
 2. シラス台地が広がり水持ちが悪く稲作に適さない土地が多いため、広大な土地を活用した畜産が発展した。
 3. 冬でも温暖な気候を利用して、家畜の飼育となる穀物を二毛作で大量に生産できる環境があったため。
 4. 平野部が少なく耕地面積が限られているため、狭い土地でも効率よく収益が上がる畜産業に特化した。
- 問5 宮崎県において、冬でも温暖な気候を活かした農業が発達した理由を、海流の性質と地形の観点から説明した記述として最も適切なものはどれですか。 （2021年 東京都公立入試 類似）
1. 沖合を流れる寒流が夏場の気温上昇を抑える一方で、南側の平野部が日射を長時間受けることで年間平均気温が高まるため。
 2. 寒流と暖流がぶつかる潮目にあたるため海面温度が安定し、平野部を流れる河川が常に霧を発生させて作物を保護するため。
 3. 北部の山地から吹き下ろす乾燥した冷たい風が、暖流の湿った空気と混ざり合うことで、ビニールハウス内の温度を一定に保つため。
 4. 沖合を流れる暖流が周囲の気温を下げにくくし、さらに北部の山地が冬の冷たい季節風を遮る役割を果たしているため。
- 問6 沖縄県の伝統的な住居の特徴について述べた次の文のうち、内容が正しいものはどれですか。 （2018年 山形県公立入試 類似）
1. 夏の湿気や洪水による浸水を防ぐため、床を高くした「高床」の構造にしている。
 2. 屋根の瓦の継ぎ目を漆喰（しっくい）で塗り固め、強風への対策としている。
 3. 豪雪による被害を避けるため、屋根の傾斜を急にした「合掌造り」を採用している。
 4. 北西からの冷たい季節風を防ぐため、家の北側に「屋敷林」を設けている。
- 問7 1978年から2018年にかけての沖縄県の観光に関する統計資料を分析すると、観光客数と観光収入の双方が著しい成長を見せていることがわかります。この約40年間の変化について、数値の推移から読み取れる事実として最も適切なものはどれですか。 （2024年 群馬県公立入試 類似）
1. 1978年と比較して、観光客数の増加率よりも観光収入の増加率が極端に低くなっており、観光産業の経済への影響力は年々低下している。
 2. 観光客数はこの期間に8倍以上の増加率を記録しており、それまでの主要産業であった農業の生産額を統計開始直後に上回った。
 3. 観光客数は大幅に増加したものの、観光客1人あたりの消費額が急減したため、観光収入の総額は1978年当時の水準を維持するにとどまった。
 4. 観光客数は1978年の約140万人から2018年には約1000万人に達しており、観光客数の増加に連動して観光収入も大きく拡大した。
- 問8 鹿児島県や宮崎県などを中心に、肉用牛や豚、鶏などの飼育が盛んな地域が九州地方です。この地方の農業産出額における品目別割合において、最も大きな割合を占めている部門はどれですか。 （2025年 岩手県公立入試 類似）
1. 野菜
 2. 果実
 3. 米
 4. 畜産
- 問9 九州地方の阿蘇山などで見られる、火山の噴火によって地下のマグマが噴出した後、山頂部が陥没するなどして形成された大規模な凹地を何といいますか。 （2019年 愛知県公立入試 類似）
1. リアス海岸
 2. カルデラ
 3. 楯状火山
 4. シラス台地
- 問10 高知県や宮崎県では、冬季でも温暖な気候とビニールハウスなどの施設を利用することで、ピーマンやナスなどの作物を本来の時期よりも早く栽培・収穫して出荷しています。このような栽培方法を何といいますか。 （2020年 大分県公立入試 類似）
1. 促成栽培
 2. 抑制栽培
 3. 露地栽培
 4. 二毛作
- 問11 中国の経済成長と沖縄観光の関連について述べた次の文のうち、2010年当時の統計的な事実に基づいた正しい記述はどれですか。 （2014年 沖縄県公立入試 類似）
1. 中国のGDPが世界第3位に低下した時期に、沖縄を訪れる外国人観光客の中で中国人の割合が最も低くなった。
 2. 中国のGDPが日本を追い抜き世界第2位となった時期に、沖縄を訪れる中国人観光客は1990年代末の約20倍以上に増加した。
 3. 中国がGDPで世界第1位を維持し続けた結果、1990年代から毎年10万人以上の中国人観光客が沖縄を訪れていた。
 4. 中国の生活水準が低下したため、沖縄を訪れる中国人観光客の数は1990年代から2010年にかけて減少に転じた。
- 問12 日本の品目別の食料自給率と小麦生産の実態について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 （2021年 長野県公立入試 類似）
1. 日本の小麦自給率は極めて低いため、国内での生産は北海道のみに限定されており、九州地方などの他の地域ではほとんど生産されていない。
 2. 近年、米の自給率は小麦と同程度の10%から20%まで急落しているが、それを補うために福岡県や熊本県といった九州地方での小麦増産が進められている。
 3. 米の自給率は100%に近い水準を維持しているのに対し、小麦の自給率は10%から20%の間と低く、国内では北海道のほか、九州地方の福岡県や佐賀県などが主要な産地となっている。
 4. 小麦は米と同様に自給率が非常に高く、国内の需要をほぼ賄うことができており、九州地方の全県が収穫量で全国トップ10に入っている。